

SUEMURA EIICHIRO

守谷市議会議員

すえむら 英一郎

後援会ニュース

MORIYA CITY COUNCIL MEMBER

もりや市議会だより 2019年 7月号 【討議資料】



～今はなき「見えバス」について～

今回の一般質問は「見えバス」がテーマでした。

「見えバス」導入後も、乗降客数等の増加が思ったほど出なかった等の事情もあります。しかし、最大の中止となった理由は経費負担の問題、それを予測しきれなかった事と考えます。

関東鉄道の営業所統合、移転によってバスの配置も変わり、見えバスに必要な車載機器の設置数を増やす事が必要となり、予想外に増えた経費を関東鉄道、守谷市双方共に負担できないとなったことが中止に繋がりました。

関東鉄道の営業所統合計画自体は、平成27年前半の時点で一応把握はしていたとの事でした。これが見えバスの将来に悪影響となる可能性を想定できなかったことが悔やまれます。

実は、当初から見えバスプロジェクト自体に、関東鉄道としてあまり協力的ではありませんでした。事業スタートにあたって、守谷市と関東鉄道との間で、ウィンウィンの関係を築けなかったのも根本的な原因として大きいと思われます。

また、ひたすら経費負担を嫌い、あくまで守谷市が勝手に行った事業で、関東鉄道としては車載器の設置場所を提供したに過ぎないと言い放つ姿勢には疑問を覚えます。



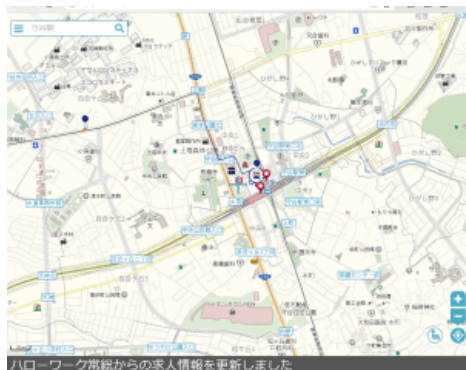
加えて、事業中止に至った背景等の広報、周知も不十分な面があった点は否めません。

直前まで何とか事業を継続できないかと調整に注力していた経緯もありますが、市の広報等で発表できたのは、事業中止となってからの事でした。

つまり「見えバスを中止する予定です」ではなく、「見えバスを中止しました」になってしまったわけであり、不透明さを感じた市民の方も多くいたことと思います。

今後も民間企業と連携した上で、新規プロジェクトに挑戦しなければならない事例は多く出てくると考えられます。相手の意図もありますし、こちらの思い通りに進むとは限りません。

しかし、変わりゆく世の中において、自治体としても新しい挑戦は常に必要です。



ハローワーク常総からの求人情報を更新しました